

第5回
千代田中学校



私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。

5回目は、千代田中学校です。生徒会長の安永あゆみさん、副会長の小西敬介さん、書記の浅野英祐さん、重松明日香さんの4人に話を聞きました。

この学校の自慢は何ですか？

安永さん 「あいさつがよくできること」
小西さん 「行事に積極的に取り組むこと」
浅野さん 「部活動が盛んなこと」
重松さん 「みんなが元気なところ」



学校の自慢は色々あるようですが、取材を通して、バックボーンに共通した精神があることを感じました。
あいさつに関しては、来訪者や校区の人たちに対してはもちろん、毎朝、生徒たちで当番を決めて校門に立ち、あいさつ運動を行っています。また、職員室に入る時には、学年、名前、どの先生に何の用事があるのかを告げて入室します。

行事の取り組み方にしても同様です。たとえば体育祭は、通っていた小学校区対抗で行うため、夏に生徒たちでリーダーを選出、自分たちで応援合戦など準備をします。ボランティア活動も盛んで、アルミ缶やペットボトルキャップ回収にも積極的です。そして、部活動。千代田中学校では、すべての生徒が社会体育も含めて運動系、文化系の部活動に参加しています。そのためか、みんな元気で和気あいあいとしています。



生徒たちが自主的に行うあいさつ運動

印象に残ったのは、この取り組みを生徒たちが当たり前だと思っているところ。この学校の校訓は「自立、鍛錬、友愛」の3つ。自立するためには、学力をつけ、自ら考える力が必要。同様に、鍛錬には、日頃から運動や体を鍛えなければならぬし、友愛には、ボランティア精神と和の心が必要になります。

千代田中学校は、昭和33年5月に当時3つあった中学校を統合。校訓は平成3年に制定されましたが、校訓にも「自立の心身に受けて」という歌詞が織り込まれていて、古くからの精神が受け継がれているようです。生徒会活動も、生徒から生徒へ引き継がれているため、校内行事のことなどで教師よりも詳しい時があるほどだということです。

3年生の生徒会活動の任期は今年12月まで。次の生徒会に望むことを会長に聞くと「これまで以上にボランティア活動を一人一人が自分の意見を持って発言できるように学校にしてほしい」とのことです。現状に満足せず、高みを目指す姿勢は私たちも見習いたいところです。

千代田中学校の自慢は「受け継がれる自立精神」と言えるでしょう。



校長先生から一言

校訓の「自立・鍛錬・友愛」をいつまでも忘れず、ふるさと千代田を担う人になってください。

千代田中学校 校長 米澤宣輝